

図書館の貴重書展

国立看護大学校図書館は、国立国際医療センター病院附属看護学校から譲り受けた貴重書を保管しています。国立国際医療センター病院附属看護学校は、国立病院における新制度最初の看護学校として設立されました。当時の名称は、国立東京第一病院附属高等看護学院です。

第二次世界大戦後、GHQの指導により新たな看護教育制度が策定され、その看護教育を展開するためのモデルスクールとして東京看護教育模範学院（聖路加女子専門学校と日本赤十字女子専門学校を合併）が1946年6月1日に開校します。

その後1948年5月に、国立東京第一病院附属高等看護学院が国立病院最初のモデルスクール（看護教育模範学院）として指定されました。

これにより、医師の主導による日本の看護教育から、看護教員による教育指導体制へと変化しました。アメリカの看護学を取り入れて新しい日本の看護学を確立するために、物資が少ない中、盛んに洋書の翻訳や出版が試みられました。

国立看護大学校図書館にある貴重書は、当時の希少な看護学教科書や洋書で占められています。これらは、戦後日本の看護史を読み解く資料として十分な情報量を持っています。

敗戦により財政難に陥った日本において、当時出版された本は劣化の激しい酸性紙を使用しているものが多く、読みにくく傷みが激しいものもあります。また、それらを共有し、順番に使っていたと思われる形跡もあります。

取扱いには注意が必要ですが、是非そと手に取ってご覧いただければ幸いです。

2022年1月